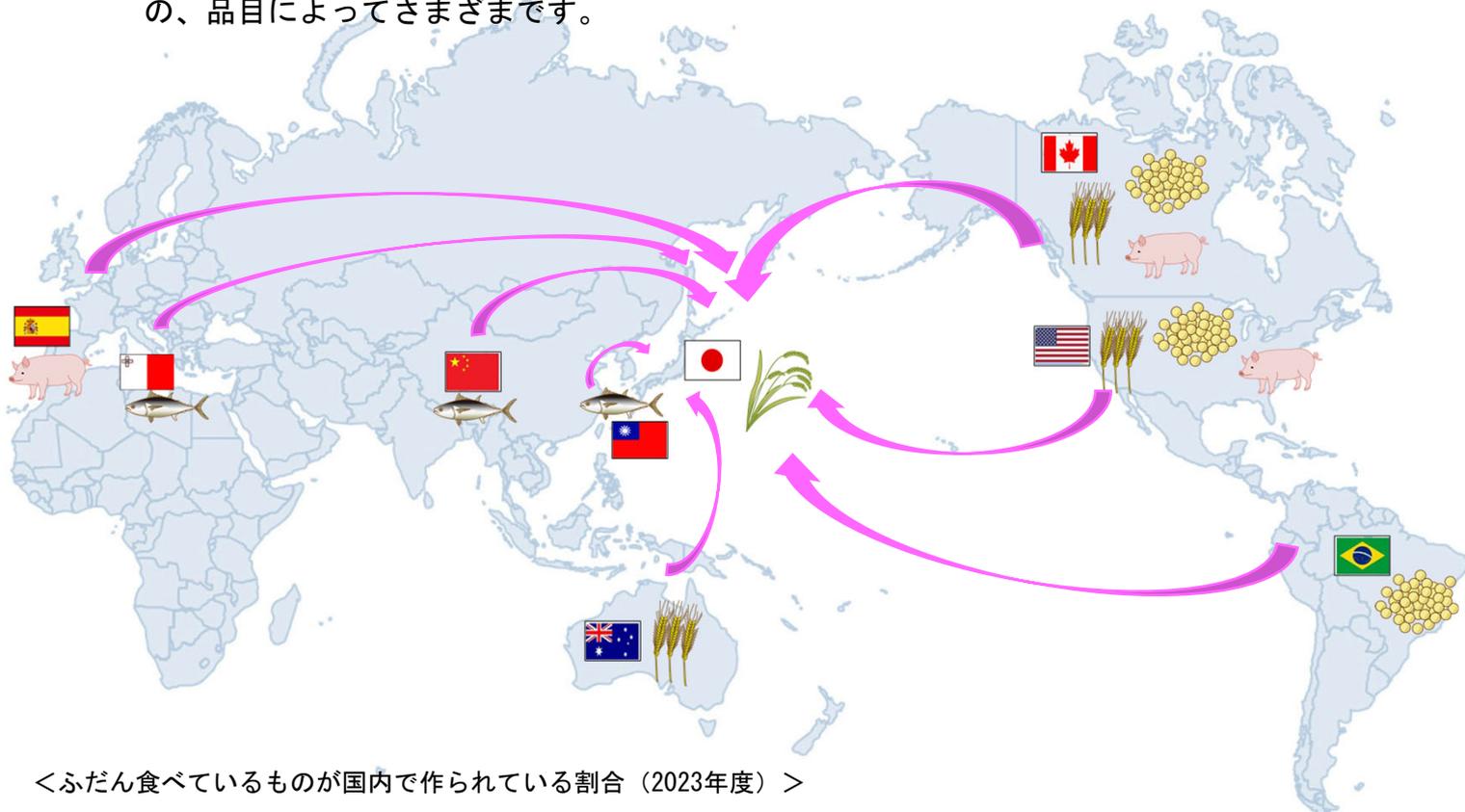


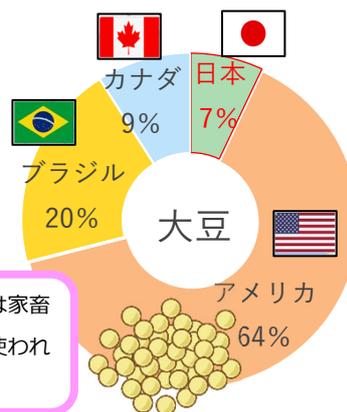
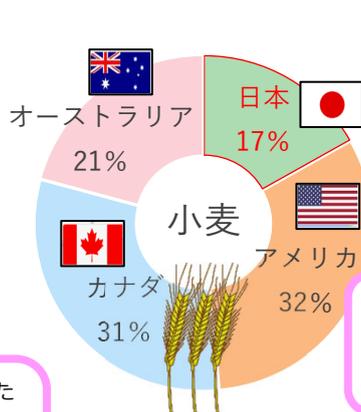
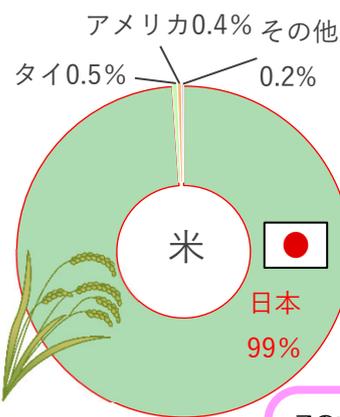
私たちが食べているものについて調べてみよう！

私たちがふだん食べているものは、どこで作られているのかな？

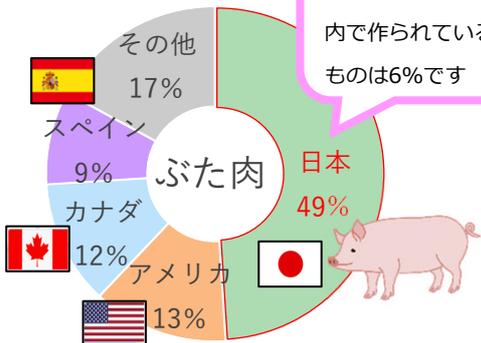
私たちがふだん食べているものは、国内で多く作っているもの、外国からの輸入が多いもの、品目によってさまざまです。



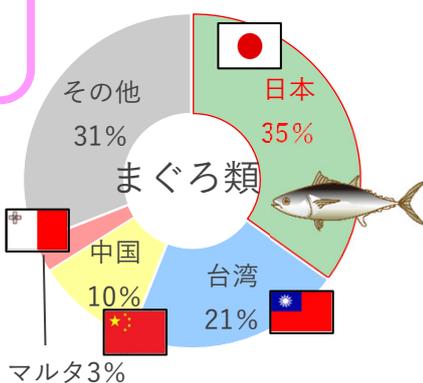
<ふだん食べているものが国内で作られている割合（2023年度）>



小麦・大豆は家畜の飼料にも使われています



このなかで、ぶたが食べる飼料も国内で作られているものは6%です



国内で消費されている食べ物が、どれくらい自分の国で作られているかを示す割合を「食料自給率」と言うよ！日本の食料自給率は38%。多くの食べ物を外国から輸入しているため、他の国と比べて低くなっているんだ。

【関連ページ】
食料・農業・農村白書
第1章第4節



資料：農林水産省「食料需給表」、「農林水産物輸出入概況」を基に作成
注：「まぐろ類」は2023年の数値



これからも食べ物を安定的に手に入れることができるのかな？

 世界では、人口の増加（2024年81億人→2050年約96億人※）などにより、必要とされる食べ物の量が増えています。外国からの輸入にたよる日本にとって、食べ物を安定的に輸入していくことについて不安な点があります。

※国際連合「World Population Prospects : The 2024」

食べ物を安定的に輸入していく上で不安な点

- ✓ 地球温暖化による異常気象が増えています
- ✓ 飼料や肥料、燃料などの価格が上がっています
- ✓ 輸入する食べ物の価格が上がっています
- ✓ 鳥インフルエンザなどの家畜伝染病が増えています
- ✓ 輸出国による規制が行われる場合があります



温暖化



価格上昇



家畜伝染病



輸出禁止

【関連ページ】
食料・農業・農村白書
第1章第2節



農産物や食品は安い方がうれしいけど、そのことで農家さんや食品メーカーが生産を続けられなくなるのも困るなあ。

作る人と買う人がお互いのことを思いやり、みんなが納得できる価格で販売されることが大切だね。



すべての人が必要な食品を手に入れられているのかな？

 すべての人が、健康的な生活を送るために必要な食品を十分に手に入れられているとは限りません。生活に困っている人や、近くにスーパーがない人などが食品を手に入れにくくなっています。

フードバンク

食品企業などから寄付された未利用の食品を、必要な食べ物を十分に手に入れられない人などへ提供する団体です。食品ロスを減らすことにもつながります。



フードバンクから提供される食品など

資料：認定特定非営利活動法人フードバンク山梨

こども食堂

無料または安くて栄養のある食事や、だれかと一緒に食事をする場所を子どもたちなどへ提供する団体です。こどもの居場所を作ったり、地域の交流の場になったりしています。

移動販売車

地域内のお店が閉店したことでスーパーが遠くなってしまった人に向け、車で食料品や日用品を販売する取組です。

【関連ページ】
食料・農業・農村白書
第4章第2節



あなたの地域の郷土料理、知ってる？

 地域にはそれぞれの特徴ある歴史や文化があり、昔からそこでとれる旬の新鮮な産物を使用し、気候や風土にあった調理方法で作られ、食べられてきたものを「郷土料理」と呼んでいます。

一方で、外国料理など私たちの食べるものが変わってきたこと、家庭環境が変わってきたことなどから、郷土料理にふれる機会が少なくなっています。



せんべい汁 (青森県)
小麦粉に塩と水をまぜて丸く焼いたものを、みそ汁やなべに入れて煮たもの



押しずし (石川県)
お酢でしめた魚、すしめしなどを木の箱に重ね入れ、一晩押しつけてねかせたもので、お祭りやお祝いごとなどに食べられる



鯛そうめん (愛媛県)
鯛を一尾まるごと姿煮にして、そうめんと一緒に盛り付け、タイの煮汁ごと食べる



馬刺し (熊本県)
うすく切った馬肉を薄切りのたまねぎやおろししょうがなどと一緒に甘口のしょう油をつけて食べる

農林水産省のウェブサイト「うちの郷土料理～次世代に伝えたい大切な味～」を使って、日本にはどのような郷土料理があるのか調べてみよう！



【関連ページ】
食料・農業・農村白書
第4章第4節



日本の食について考えよう：ニッポンフードシフト

家で料理を作る代わりに、外食をしたり簡単に準備できる冷凍食品などを使ったりすることが増える中、農業に対する関心がうすくなっています。日本の食の未来を守るために、食べ物や農業の問題を自分事として考え、国産の農林水産物を積極的に選ぶことにつなげていく必要があります。そのため、2021年から「食から日本を考える。ニッポンフードシフト」という運動が始まりました。

「ニッポンフードシフト」では、日本の食を支えるさまざまな人が協力して、日本各地の農家さんの取組や、地域の食、農山漁村の大切さやすばらしさを発信しています。

みなさんも一緒に「食」について考えてみませんか？

みなさんにとっても身近な「カレー」、「ぎょうざ」、「おにぎり」をテーマに、食材を作ってくれる農家さんの取組やレシピを紹介したりしているから、ホームページをチェックしてみよう！



アニメーション動画



イベントの様子

【関連ページ】
食料・農業・農村白書
第4章第4節

